

## 大通公園を望む窓辺から

### 4年目の想い

常任理事 林 宏一

医師会の一期の任期は2年間である。北海道医師会常任理事として二期、4年目に突入した。自分でも良くここまで勤められたものだと思っている。たぶん周囲の皆様には多大なご迷惑をかけているものと推察しているが、自分の知力もちろん、体力も限界まで引っぱられた弓の弦のごとく緊張して、日々過ごして来たし、現在もそうである。

思い起こせば、就任してすぐのころ、有床診療所における管理栄養士の雇用問題があった。もし人員基準として規定されていたらと思うと背筋が寒くなる。この反対運動が自分の最初の仕事だったように自分勝手に思っている。NHKの地方局とタイアップして番組に参加したりしたが、どれ程の効果があつたのかは定かではない。しかし、まだ有診をなんとか経営しているものの、道内のみならず全国の有診の減少に歯止めがかかっていない。この先どうなるのやら皆目分からない。

ところで、道医師会館や道庁およびかでの2.7へは担当する部の種々の関連会議で頻回に通っている。大通公園での「ライラックまつり」、「YOSAKOIソーラン祭り」や冬の「さっぽろ雪まつり」など、年間の催事も横目で観ながら直接一度も参加していない。大きなビールのジョッキを持っている若者達は実に楽しそうである。自分にもあのような時代があったなあと思いがながら足早に駆け歩いている。旭川への帰路の列車の流れる窓の風景はすでに見飽きて何の感情も湧かない。深川と旭川の間の5つのトンネルの中の列車の窓に、焼きつく白く輝く蛍光灯の光はタイムマシンの様である。

4年目の時の流れはもうすぐ到達しそうである。最後の働きなのか悪あがきなのか、なかなか成長できない自分がそこにいる。

### 面倒なことは考えない？

監事 藤瀬 幸保

大通公園では、多勢の人が大ジョッキなど傾けながら、面倒なことは考えずにおだをあげている。いいじゃない。

おだをあげると言えば、アメリカ大統領候補のドナルド・トランプが言いたい放題のことを言っている。真意はともかく、その発言が極端であればあるほど「物事のコル心をついている」ように感じられるのだろう。パイを大きくすればお裾分けがあるぞというアメリカ主導のグローバリズムも、ほとんどの人はお裾分けに当らないという格差社会になってしまった。世界がアメリカの思うようにならなくなって、今までのような単純な考えでは立ち行かなくなったのに、考えているばかりでなにもしていないのと同じじゃないか、むしろ悪くなっているという評価が広まっている状況に大衆はいら立っているのだ。そういう時に直裁で短絡した発言が喝采を浴びているように思われる。だからと言ってその発言が実効のある策を持っているわけではなく、ただ言っているだけである。当然ながら支持する人も深く考えているわけではない。イギリスのEU離脱騒ぎ、日本と近隣諸国の関係などみてもそういう雰囲気を感じさせる。

世界中の指導者が深く考えてもなかなかうまくいかないときに、「短絡・明瞭」な意見が出てくると、それに支持が集まる状況である。つまり多くの人がスマホにかまけて面倒なことは考えなくなったのでは。私どもが若いころ居酒屋で氣勢を上げるのと変わらない発言が、昼間の普通の社会に入り込んできて物事が決定されていく情勢は本当にこわいと思う。

複雑で面倒な状況なら、それに負けずにじっくり面倒がらず、辛抱強くあきらめずに考え努力することが大切ではないかと思う。

